湖池屋新聞

第29号
2022年7月4日(月)

編集長兼カラムーチョ担当の小林です！　埼玉・久喜のアンテナショップ「別邸湖池屋」発、社員の声が聴けるオリジナル新聞です。

ぼくはかなりのヘビースモーカーなのですが、いわゆるタバコのマナーについて、ここ数年間の自分と世の中を振り返ってみると、ずいぶん「マシになってきた」なぁと思います。以前に比べれば道端の吸い殻は格段に減ったように見えますし、分煙も徹底されてきたのでは（もちろん、まだまだ改善すべきことは多いですけれど）。ぼくも昔は必ずしもマナーを守れていなかったな……と反省しつつ考えたのですが、あれって、「もうすでにゴミがあるから、自分もやって良いだろう」みたいな「便乗ポイ捨て」の心理が多分に働いているんじゃないか。自販機の横のゴミ箱とか、放置自転車のカゴとかもよく溢れかえっていますよね。一人ひとりの意識が大事……というと月並みですが、裏を返せば、一人の無意識な「まあいいや」が周りに伝染していき、みんなの街を汚してしまうのですね。タバコ好きだからこそ、ぼくも気をつけたいものです。

湖池屋新聞 編集長　小林 重文
(株)湖池屋 マーケティング部
カラムーチョ担当

新商品
7月4日(月)
※全国スーパーマーケット等 発売日

JAPANプライドポテト 焼のり醤油 宗像

「宗像」は「むなかた」と読みます。ご存知でしょうか？　千五百年以上の歴史を誇り、2017年に世界遺産に登録されたばかりの「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群。敬虔な心で自然を守ってきた先人たちのおかげで、今でも豊かな海と緑が息づいています。

この商品の開発は、そんな先人から受け継いだ海の豊かさを守り、次世代へと継承するという宗像市の取り組みに湖池屋が賛同することで始まりました。毎年この時期恒例、5年目となる人気商品です。宗像の海が育んだ穴子の旨み、有明海産の焼のりの芳醇な風味、九州醤油の甘みが、国産じゃがいもの旨みとバッチリ調和。ただの醤油味とは一線を画す美味しさです。しかも1袋につき1円を宗像市に寄付。皆さんと私たちのポテトチップスへの愛（？）が、海の環境保全に役立てられるという、素敵な仕組みです。さらに、今年は実際に「清掃活動」も行ったのだとか……！？　担当の和仁さんに聞いてみました！

「やってみて初めて実感」海の豊かさを考える

和仁　今年は新たな取組みとして、宗像市さんとリサイクル事業を手掛けるテラサイクルさん、湖池屋の三者合同で、市に漂着した海洋プラスチックから、買い物かごをつくるという試みを実施しました。

先日4月9日には地島（じのしま）での海岸清掃を実施し、地元の方々などおよそ130人が参加。一日でグリーンネット590袋分くらいのゴミと、海洋プラスチックであるポリタンクが20個ほど集まりました。興味深かったのが、ペットボトルの番号を調査したりしてみると、日本だけでなく中国や韓国、さらにシンガポールやタイからも流れ着いているらしいことが分かって。

小林　えっ、そんな遠い国からも！？　逆に日本で捨てたゴミもどこまで流れてしまうか分からないってことですね。

和仁　今回の活動に参加して、宗像の海の美しさに感動した一方、こんなにきれいな海に、ゴミが落ちていることに悲しくなりました。島国である日本にとって、「海の豊かさを守る」のは一番身近なSDGsかもしれないなと。

小林　だからこそ、商品を通じて誰でも寄付できるというのは良いですよね。

和仁　ゴミ拾いといっても、ネットや軍手、トング、運搬代や処理費用などなど、お金も人手もかかります。皆さんに買っていただいた売上の一部でそれらの活動を応援できるのは嬉しいことです。ボランティアに行くのはハードルが高くても、お菓子という身近なものから環境保全に参加できるというのがポイントですね。

小林　地域の人とも深く交流されましたか。

和仁　市役所や地域住民の方々もすごくやる気にあふれていて、本当に「一緒に商品を作っている」という感じです。あと、ゴミ拾いの後に地元の方々が、地島名物の「椿ごはん」と地魚の味噌汁を作ってくださったのが、本当に美味しくって……それも感動しました（笑）。

地域と一丸になって、商品だけでなく多方面から「海の豊かさ」にアプローチしているんですね。パッケージ一面に広がる海のイラストを通じて、思いを馳せてみてはいかが？

▲海岸清掃に携わったみなさん

(株)湖池屋 マーケティング部
和仁 茉李奈